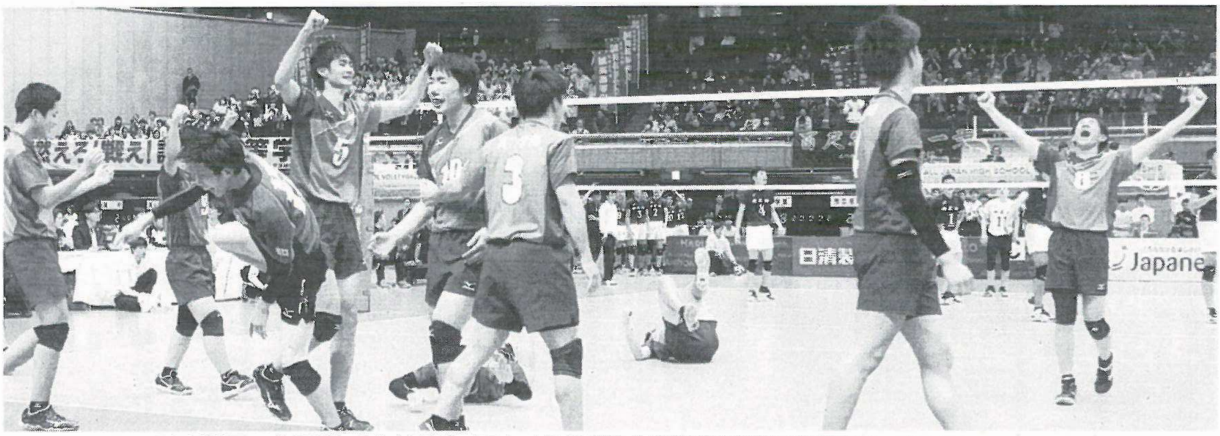
高川学園ベスト4進出

全日本高校バレー男子

2年連続



【高川学園―市尼崎】２年連続のベスト４入りを決めて喜ぶ高川学園の選手ら＝６日、東京体育館

バレーボールの全日本高校選手権第3日は6日、東京体育館で3回戦と準々決勝が行われた。山口代表の男子・高川学園は3回戦で全国高校総体準優勝の開智（和歌山）を2―1、準々決勝で市尼崎（兵庫）を2―0で下し、女子・誠英も3回戦で鹿児島南を2―1、準々決勝で富山第一を2―0で破り県勢そろって準決勝に進み4強入りした。

男子は総体王者の鎮西（熊本）、前回準優勝の東亜学園（東京）、洛南（京都）も準決勝に進出。女子は総体覇者の東九州龍谷（大分）、3連覇を目指す下北沢成徳（東京）、国体を制した大阪の主力を占めた金蘭会も4強入りした。

2年生トリオが躍動

3回戦で総体準優勝の開智（和歌山）に2―1で勝利を収めた高川学園。準々決勝も勢いそのままにストレート勝ちし、2年連続のベスト4進出を決めた。有吉健二監督は「気持ちのこもったプレーが随所に見られた」と目を細めた。

2試合ともウイングスパイカーの持田恒希、井原海翔、山田亜藍の2年生トリオが躍動、得点を重ね勝利を呼び寄せた。持田は「調子が良かった。自分の中で落ち着いてプレーできた」と振り返った。

準決勝の相手は総体覇者の鎮西（熊本）。直接対決で負けているだけに監督、選手ともリベンジに燃える。

有吉監督は「インターハイは三輪大将をレフトに置くなどチャレンジして負けたが、それが今大会に生きている」と手応えを感じている。「試合を重ねる毎に選手たちの新しい一面を見ることができている。明日も期待したい」と選手のさらなる成長に期待を込める。

昨年のベスト4を経験している三輪（3年）は「昨年の先輩の分までしっかり試合をしたい。流れが厳しいときに自分が得点を決め、相手のエースである鍬田憲伸、水町泰杜を止めたい」と攻守での活躍を誓った。（寺田）

【男子】

▽3回戦

高川学園（山口）	2	25―20 19―25 25―20	1	開智（和歌山）
崇徳（広島）	2	26―24 25―21 19―25	1	愛工大名電（愛知）
洛南（京都）	2	25―18 25―13	0	荏田（神奈川）
東亜学園（東京）	2	25―21 25―19 23―25	1	大塚（大阪）
北陸（福井）	2	28―26 29―27	0	大村工（長崎）
市尼崎（兵庫）	2	26―24 25―16	0	松阪工（三重）
近江（滋賀）	2	25―22 25―22	0	仙台商（宮城）
鎮西（熊本）	2	25―10 29―27	0	足利工大付（栃木）

▽準々決勝

高川学園（山口）	2	28―26 25―19	0	市尼崎（兵庫）
洛南（京都）	2	25―17 25―13	0	崇徳（広島）
東亜学園（東京）	2	25―21 25―16	0	北陸（福井）
鎮西（熊本）	2	25―17 29―27	0	近江（滋賀）

【女子】

▽3回戦

誠英（山口）	2	25―19 24―26 25―22	1	鹿児島南
下北沢成徳（東京）	2	25―22 25―15	0	聖和女学院（長崎）
奈良女	2	26―24 25―20 23―25	1	誠修（福岡）
金蘭会（大阪）	2	25―19 25―10	0	福井工大福井
由利（秋田）	2	25―22 25―20	0	就実（岡山）
富山第一	2	25―16 25―10	0	土浦日大（茨城）
八王子実践（東京）	2	25―19 25―17	0	北海道大谷室蘭
東九州龍谷（大分）	2	25―19 25―20 22―25	1	柏井（千葉）

▽準々決勝

誠英（山口）	2	25―14 25―22	0	富山第一
下北沢成徳（東京）	2	25―17 25―13	0	奈良女
金蘭会（大阪）	2	25―10 25―17	0	由利（秋田）
東九州龍谷（大分）	2	25―17 23―25 25―13	1	八王子実践（東京）

誠英も4強入り

女子、5年ぶりセンターコート

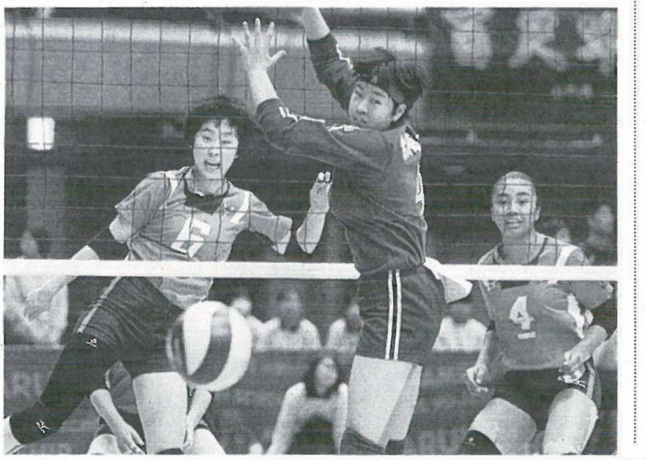
前回ベスト8に終わった全国総体2位の誠英は3回戦で鹿児島南を2―1、準々決勝で富山第一を2―0で下し、準優勝した2013年以来5年ぶりの4強入りを果たした。

3回戦の鹿児島南戦でデュースの末追いつかれて迎えた第3セットは、序盤からリードを奪われる苦しい展開。8―12でタイムアウトを取って悪い流れを断ち切り、練習通りのプレーを心掛けた。

「絶対に決めてやるという気持ちで打ち切った」と主将ヒックマンジャスティスがスパイクを連続で決めるなど5連続得点で逆転に成功。その後も一進一退の攻防を繰り広げたが、25―19で振り切った。

センターコートを懸けた富山第一戦は粘り強くつなぎ長いラリーを制して第1セットを25―22で競り勝つと、第2セットは終始リードを奪って25―14で圧倒した。

準決勝は全国総体女王の東九州龍谷（大分）に挑む。林田愛佳は「全国総体の決勝で負けているので、その分を取り返せるように頑張りたい。昨年ベスト8で負けた先輩たちの思いを胸にしっかり勝ちたい」と決意を新たにした。（下村）



【誠英―富山第一】スパイクを決める誠英の野田千裕（6）とヒックマンジャスティス（4）＝6日、東京体育館

トップリーグ

決勝はパナとサントリー

一勝のパナソニック（白組1一敗のサントリー（紅組1位）

宮ラグビー場）に駒を進めた。

トヨタ自動車（紅組2位）と対戦したパナソニックは前半に福岡のトライなどで

った。サントリーは7トライを奪い49―7でヤマハ発動機（白組2位）に快勝した。5～8位決定予備戦は東芝（紅組3位）と神戸製

反撃に遭う。思うように攻撃できない時間が続いたが、何とか耐えしのいだ。

試合が終わると、山沢は指揮官にアドバイスを求め

大学ラグビー

帝京V9か、明大復活か

切るだけ。しっかり防御からプレッシャーをかけてい

ロックの古川主将は「目標の日本一を勝ち取ろう」と呼び掛け、気勢を上げた。

決勝進出は19大会ぶりで、多くのファンも詰めか

第96回 全国高校サッカー選手権

決勝は流経

サッカーの全国高校選手権第6日は6日、埼玉スタジアムで準決勝2試合が行われ、決勝は流通経大柏（千葉）―前橋育英（群馬）の顔合わせとなった。流通経大柏は10大会ぶり2度目、前橋育英は初優勝を目指し、

8日午後2
スタジア
全国高校
経大柏は
場の加藤
い、矢板中
―0で下
の前橋育

ハイライト

初失点で闘志

前半29分。今大会で初めて喫した失点が前橋育英の選手の闘争心に火をつけた。「点差がついても、気を抜くことはなかった」と2得点の飯島は胸を張る。お返しとばかりにゴールを重ね、2大会連続で決勝へ。前回は届かなかった悲願の頂点にあと1勝と迫った。初戦から4試合で計15得

点と攻撃
いるのは
素早い攻
だ。象徴す
突き放し
ターサー
が縦パス
た五十嵐
を制して
た。
山田監
コンパク
から速く

RENOFA YAMAGUCHI FC 2006

レノファに徳島の

鳥取からは広田

サッカー
口は6日、
(26)がJ
広田隆治（
ら完全移
表した。
大崎は宮
168センチ、
号は7。昨